

ボトックスによる治療に対する同意書

私は今回行われる「重度の原発性腋窩多汗症」の治療およびボトックスによる治療に関する注意事項について別紙説明文書のように説明いたしました。この同意書は署名後も取り下げることができます。また、同意を拒否されても診察上の不利益を受けることはありません。

令和 年 月 日

説明医師：皮膚科医師 印
(自筆署名、もしくは記名押印)

立会人 印
(自筆署名、もしくは記名押印)

私は医師より「重度の原発性腋窩多汗症」の治療およびボトックスによる治療に関する注意事項について説明を受け、十分理解し、納得しましたので、ボトックスによる治療を受けることに同意します。

令和 年 月 日

住所
(TEL:)

患者氏名 印
(自筆署名、もしくは記名押印)

生年月日 明治・大正・昭和・平成 年 月 日生

患者さん本人が説明を受ける状態にないため、代わりに上記の説明を受け、その内容を十分理解した上で、検査を受けることに同意します。(原則としてご家族の方にお願ひします。)

住所
(TEL:)

氏名 印
(患者様との間柄:)
(自筆署名、もしくは記名押印)

ボトックスによる治療についての説明

原発性腋窩多汗症



人間のからだは、暑さや運動によって体温が上がりすぎることを防ぐため必要に応じて汗をかき、かいた汗の蒸発とともに熱を発散するようにできています。また、精神的な緊張やストレスも発汗の原因となります。

多汗症とは暑さや精神的な緊張により、あるいはそれによらず多量の汗が出て日常生活に支障をきたす状態のことをいいます。

多汗症は、明らかな原因がなく生じる場合（**原発性腋窩多汗症**）と、他の病気や使用している薬の影響で生じる場合（**続発性多汗症**）に分けられます。

今回、あなたに使用をおすすめする薬は、**ボトックス**という注射薬です。ボトックスはアメリカやイギリスを含め90カ国以上で承認されています。この薬による治療を受ける際には、以下の点を十分理解いただきご納得された上で治療を受けて下さい。

また、この治療について心配なことやわからないことがありましたら、いつでも遠慮なく申し出て下さい。

原発性腋窩多汗症の診断について

原発性腋窩多汗症の診断基準

明らかな原因（他の病気や薬の使用）がないまま、ワキに多量の汗をかく症状が6カ月以上続いていることに加えて、以下の6項目中2項目以上を満たす

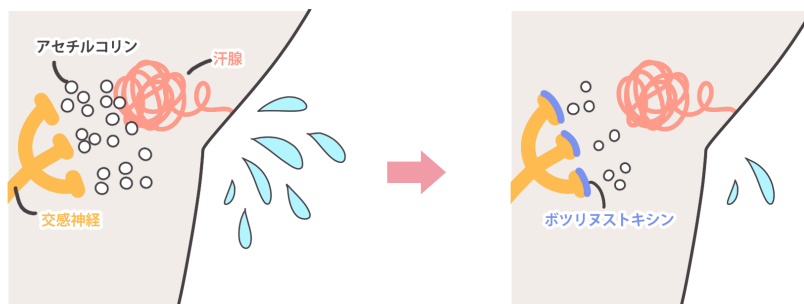
- 両方のワキに多量の汗をかき、左右の量は同じくらいである
- ワキに多量の汗をかくことにより、日常生活に支障がある
- 週1回以上、ワキに多量の汗をかくことがある
- 最初に症状がみられたのは25歳未満のときである
- 家族・親戚のなかに、同じような症状のある人がいる
- 睡眠時は、ワキに多量の汗をかくことはない

原発性腋窩多汗症の重症度判定

- 1. 発汗は全く気にならず、日常生活に全く支障がない
- 2. 発汗は我慢できるが、日常生活に時々支障がある
- 3. 発汗はほとんど我慢できず、日常生活に頻繁に支障がある
- 4. 発汗は我慢できず、日常生活に常に支障がある

3および4は重症と判定される。

成分について



この薬は、ボツリヌス菌がつくり出すA型ボツリヌストキシンという天然のタンパク質を有効成分とする薬です。ボツリヌス菌を注射するわけではありませんので、ボツリヌス菌に感染するといった危険性はありません。様々な研究の結果、このタンパク質のごく少量を汗が多く出ている部分の皮膚に直接注射すると、汗腺からの多量の汗の分泌がおさまることがわかり、医薬品として利用されるようになりました。

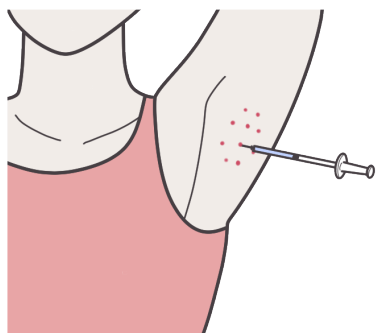
ボトックスができない方

- ・片側性、あるいは、左右非対称の腋窩多汗症の方
- ・神経筋疾患の方（重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群、筋萎縮性側索硬化症など）
- ・妊娠中・授乳中の方
- ・ボツリヌス毒素や血漿製剤に対する過敏症のある方
- ・神経筋伝達に影響を及ぼす可能性のある薬剤を服用中の方（筋弛緩剤、＜スペクチノマイシン、アミノグリコシド系、ポリペプチド系、テトラサイクリン系、リンコマイシン系＞抗生剤、抗生剤、抗痙攣剤、抗コリン剤、精神安定剤、ペニシラミン、キノジン、カルシウム拮抗剤などで作用増強の可能性）
- ・抗血小板剤、抗凝固剤等を服用されている方
- ・緑内障の方
- ・慢性呼吸器疾患のある方
- ・未成年の方

治療前の注意点

- ・治療前日にワキの毛を剃ってきてください。
- ・治療前日と当日は、制汗剤等を塗らないでください。
- ・腋窩が大きく開いて多少汚れてもよい服装で来院してください。

治療方法



- ① 発汗部位の同定のためミノール法（ヨウ素デンプン反応）をして範囲をマーキングします。
- ② 注射20分前に局所表面麻酔クリームを塗ります。
ベッドに横になっていただき、注射をする位置の印をつけます。
- ③ 消毒してから、注射の前後で痛みを和らげるために冷却します。
- ④ 印をつけた皮内か皮下の浅いところに少量注射します。
- ⑤ 注射後消毒し、点状出血のあるところのみ皮下出血予防のため数分間圧迫します。
- ⑥ 冷却し、軟膏を塗り、終了。

効果について

この薬の効果は2、3日～2週間で現れ、通常4～9ヵ月持続します。時間が経つにつれて徐々に効果が消失し神経の働きが回復してくるため、注射前の状態が再び現れてきます。この場合、ボトックスを再投与することによって同様の効果が現れます。なお、効果の程度や持続時間には個人差があります。この薬はタンパク質が主成分であるため、治療を続けていくうちに、体内にごくまれに抗体がつくられ、効果が減弱する可能性があります。

副作用

- ・アレルギー（ショック）反応（0.01%）
 - ・全身性副作用（頭痛、嘔吐、下痢、角膜障害、全身倦怠感、吐き気など）
 - ・注射局所の副作用（皮下出血、違和感、腫れなど…約1～2週間でおさまります）
 - ・他の部位からの発汗増加を起すことがあります。
 - ・極めてまれに細菌感染を起すことがあります。
- 上記以外にも副作用が生じることがあります。